実践事例 A タイプー① 年長めろん組「ペットショップ屋さん」

く保育のねらい>

- ◎自分なりに目的をもったり、友達との遊び方を考えたりしながら遊ぶ。
- ◎来園する小さい子やその保護者の方との関わりを喜びながら遊ぶ。

<「遊び込む」ために保育者自身がどのような視点をもち保育にあたっていたか>

◎この遊びの中で自分のやりたいことやこうしたいという思いをもち、 共に遊びを進める友達に伝えながら実現できるように

<この時の保育展開>

おはよう! 何してるの? 私も入れて!

自分の作った動物への思い入れも出てきて、G 子が

I 子ちゃんの

だよ!

もち始める。「自分で作ったものはその人が売るってことにしない?」と提案し、H子・I子が同意。

「自分の作ったものを自分で売りたい」という思いを

I子のペットが選ばれ、G子が声を掛け、ポロップのお客さんに売る様子を見守る。I子、肩をすくめて「I子のだ」と張り切って売り場カウンターへ行き、売り子になる。

あつきた「遊び込む」ために育みたい資質や能力 1 もっともっとと関わる意欲

- 2 自分の思いを表す力
- 3 イメージを膨らませる力
- 4 遊びのものや場を自分で作る力(工夫)
- 5 人と関わるカ

朝、担任が「社長」としてペットショップを始め、材料を並べて作っていると、何してるの? **作りたい!**と関わってくる。

育ちの見取りと

幼児

の

姿と思

の変遷

これまでの経験で、

遊びのものや場を自分で作る力

が育っており、どんどん作っていきたいのだな。作る楽しさも手伝って心が動き始めている。

自分の思いをもち、それを表す力が育っており、「こうしたい!」という思いだけでなく、ペットショップ屋さんをどのように進めていくのか、周りと調整を図りながら遊びを進めている。年長さんらしい、人と関わる力が育くまれている。

I 子は自分のが選ばれたことや自分で売れる こと嬉しいのだろう。売り終わってからは、

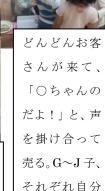
(5月)

<u>自分で売ったという満足感を得られた</u> のでは。

G子は「思ったように」遊びが進められていることに手応えを感じていたのではないか。

どんどんお客さんが来て忙 しい雰囲気も遊びの楽しさ につながっている。

もっと売りたいという思 いをもったと思われた。



で売る。

この目は

作る工夫を経験させたいわけでは ないので、量産できるように動物 の顔、手足、しっぽなどのパーツ は用意しておいた。 「自分の作ったものを自分で売りたい」という 思いを実現できているのか着目していた。 売り買いのやりとりの楽しさを感じているうちに、 H 子ら他児もやりとりを楽しめるよう、「犬の骨」 を売るというアイディアを教師で出した。

作った動物への愛着が沸き、「売りたくない」という思いをもつ子もいたのでので、まずはこの遊びのどこかに思いをもち、機会があれば、売る嬉しさなどにも触れさせようと思った。

研究日の話合い

視点①どのような遊び込む姿が見られていたか

- ●思い入れをもっていて、園のいろいろな職員にも「ペットショップに来るよう」誘っていた。
- ●「あと一個しかないよ!」などと、全部売ることを 目指していた。
- ●「お楽しみカード」を配り、一枚に付き3人まで来られるという方法を考え、お客さんを呼び込んでいた。

視点②「遊び込む」姿を引き出すための教師の具体的な一手は何か

- ◆先行経験や子どもの興味、「ポロップひろば」を生かした経験を見極めて「ペットショップの動物作り」 という内容を取り上げたのが良かったのではないか
- ◆環境の作り方として「作る場所」「売る場所」が分かれていたというのが、一人一人のやりたいことを保 障でき良かったのではないか。
- ◆幼児一人一人に大切な経験を積み重ねるためには、遊びの目的が「簡単に作れるもの」「それぞれのペースで取り組めること」「やりたいことができること」など、程よい状況を作っていくことが大切である。